日刊 動労千葉

85. 11. 30

No. 2103

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

当局・動労革マル・国労一部指導部のスト破りを粉砕し総武線をぶっとばせ！

第一波24時間スト突入！

千葉転支部組合員は、当局、動労「本部」革マル、国労一体となったスト破壊攻撃を打ち破り、総武快速線をズタズタにする11・28～29、24時間ストを断固として貫徹し、分割・民営化！十万人首切り粉砕にむけた歴史的闘いを切り拓いた。

入し、スト圧殺に全力をあげた。

こんなことでわれわれの戦闘意欲がくじけるはずはないのだ。われわれは怒りを倍加させ、スト破りに抗議し、28日正午をもってストライキに突入した。

スト破りに怒り爆発

そこで現出した事態はこうだ。

当局は、列車運行確保に全力をあげ、国労組合員をスト破り要員としてフルに活用し、わが組合員には退去命令を乱発し、幾度となく排除をこころみた。

国労は「業命には応じる」を大義名分にわが動労千葉組合員がストに入った行路に乗務するという恥ずべきスト破りを行った。当局にガードされ、D予備（13時出勤！20時16分退区）で出勤し、「業務命令」を受けるまでもなく、実に東京―津田沼間四往復のスト破りに精を出し、夜半の一時半に帰区するという有様であった。ちなみに翌日はAヨビ（6時出勤）である。当然にも動労千葉組合員の怒りは爆発し、激しい弾劾にさらされ涙ながらに謝罪する国労組合員が続出した。

一切の責任は、前代未聞のスト破りを指令した国労指導部にあり、われわれは断じて許すことはできない。

報復処分を許すな

当局の凶暴な弾圧、国労のスト破りに屈せず、われわれは29日の正午までストを打ちぬき、中曽根や当局に甚大な打撃を与え、勝利にむけた第一歩を切り拓いた。

闘いを貫徹した組合員の意識はいやがうえにも高揚し、闘う決意はより高まっている。

中曽根・当局の報復的不当処分攻撃を許さず、一人の首切りも許さぬために、断固闘い、国鉄労働者の決起を呼びかけていこう。

11・28～29スト千葉転支部からの報告

11月28日、正午をもって24時間ストに突入。（突入集会）

分割・民営化！一里塚！鉄道労働者！

当局は、三人に一人の首切りを恫喝材料に、勝手放題の攻撃を繰り返し、労働者をムシケラ以下に扱ってきた。

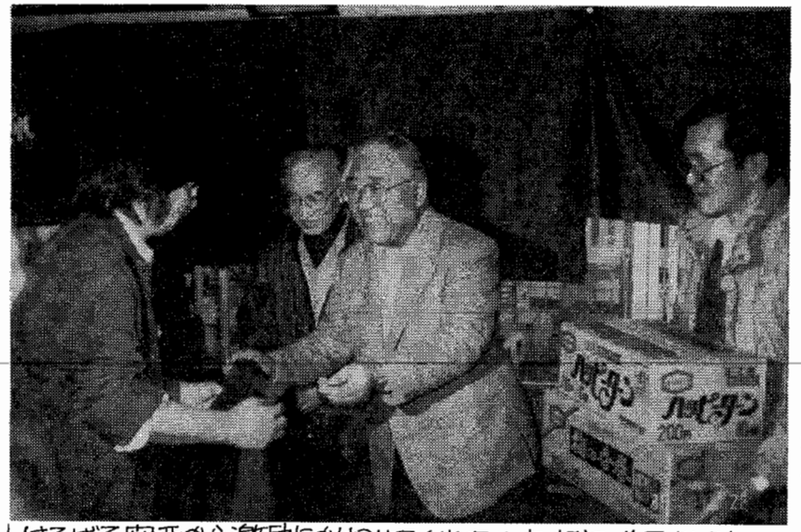
鉄「名札をつけろ」「ネクタイをしめろ」

国「カーテンをあげろ」「一口諮問だ」

「乗務停止だ」「不良品だ」こんなタワ言をどうして許せようか！

支部百十五名組合員は、積もりに積もった怒りを解き放ち猛反撃にうってでる決意をうち固め、万全のスト体制を確立しその日を待ったのだ。

ところがわれわれの実力決起をなによりも恐れる当局は、「ストをやれば解雇」などと恫喝し、動労革マルを手先に国労中央を抱きこみ、なんと「業務命令が出れば応じる」なるスト破り指令を出させ、一万の機動隊、数百の公安官、課員を導



はるばる関西から激励にかけつけてくれた山本、加辺、松原さんたち。
檄布とカンパと差し入れをうける　永田千葉転支部長。

公安・白腕（局課員）を投入し、「退去命令」くり返す当局の妨害をはねのけて貫徹。

全組合員・家族の強固な団結